

中央区高齢者の生活実態調査および 介護サービス利用状況等調査 結果報告

I 調査の概要

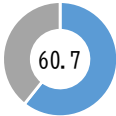
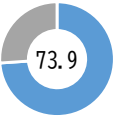
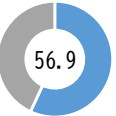
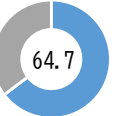
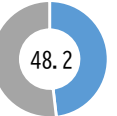
目的：「中央区高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」の策定に向けて、中央区の一般高齢者等および要介護・要支援認定者の生活実態、介護保険サービスを提供している事業者および医療機関の実態等を把握し、必要な資料を得る

調査の全体設計： ★＝国による必須調査 ☆＝国による推奨調査

	属性 年齢	一般高齢者等	要支援認定者	要介護認定者
高齢者等向け 調査	55～64歳	【調査A】高齢者福祉に関する生活実態調査		
	65歳以上	★【調査B】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査		
			★【調査C】要介護・要支援認定者調査	
			★【調査D】在宅介護実態調査	
介護保険サービス事業所 調査		☆【調査E】居所変更実態調査（新規）		
		【調査F】介護人材実態調査		
医療機関調査		【調査G】在宅医療・介護サービス提供者への調査		

調査期間：令和7年10月21日（火）～11月17日（月）
調査方法：郵送配布、郵送またはインターネットにて回収、
ハガキによる督促礼状1回
※「在宅介護実態調査」（調査D）は、令和7年6月～11月の間、
認定調査員の聞き取りにより実施

対象者数及び回収状況：

	調査A 高齢者福祉に 関する 生活実態調査	調査B 介護予防・ 日常生活圏域 ニーズ調査	調査C 要介護・要支援 認定者調査	調査D 在宅介護 実態調査	調査E 居所変更 実態調査	調査F 介護人材 実態調査	調査G 在宅医療・ 介護サービス提供者 への調査
対象者数	3,000	2,500	3,500	354	17	105	600
有効回答数	1,821	1,848	1,992	354	11	63	289
（単位）	（人）	（人）	（人）	（人）	（施設）	（事業所）	（機関）
回収率 （％）	 60.7	 73.9	 56.9	 100.0	 64.7	 60.0	 48.2

Ⅱ 結果のポイント

※基本目標は高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画（令和6～8年度）のもの
※グレー地部分は【】内記載各年度の同調査との比較 ※グラフ中の数値の単位：％

基本目標1 健康づくり（介護予防）

（調査A 問25 概要p. 7、本文p. 56）

介護予防に
取り組んでいる

44.6
%

- ▶【フレイルの認知度別】
- ・フレイルについて
“知っている”人では、
介護予防に取り組んでいる人が
6割超



- ・フレイルを“知らない”
人では、特に関心はない
(何もしていない) 人が
6割近く

（調査A 問10-4 概要p. 一、本文p. 31）

元気なうちは
いつまでも
社会参加したい

59.7
%

【令元】44.2% ➡ 5.4pt↑
【令4】49.6% ➡ 10.1pt↑
【令7】59.7%

（調査A 問9-3 概要p. 一、本文p. 23）

健康が続く限り
仕事をしたい

31.6
%

【令元】28.8% ➡ 0.8pt↓
【令4】28.0% ➡ 3.6pt↑
【令7】31.6%

- ▶元気なうち・健康が続く限り、**社会参加や仕事をしたい**
人が**増加**
- ▶「健康が続く限り仕事をしたい」人の割合は年代が高まる
につれて増加し、75～84歳で59.2%、85歳以上で60.0%

基本目標2 生活支援

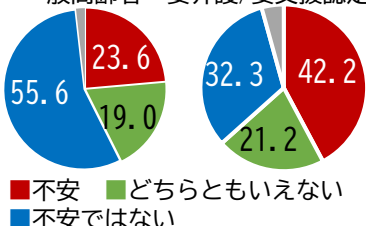
（調査A 問16 概要p. 11、本文p. 42）
（調査C 問15 概要p. 11、本文p. 130）

孤独や孤立への
不安を感じている

42.2
%

- ▶おとしより相談センターの
認知度は**8割超**だが、不安を
抱える高齢者が多い

一般高齢者 要介護/要支援認定者



（調査A 問34 概要p. 14、本文p. 66）

「終活」に
興味がある

73.5
%

- ▶【性別】
“女性”は終活に興味のある
割合が8割超と、
男性よりも高い
- ▶【家族構成別】
“ひとり暮らし”は
終活に興味のある割合が
他層より高い

（調査A 問17 概要p. 一、本文p. 44）

情報収集に
インターネットを
利用している

82.5
%

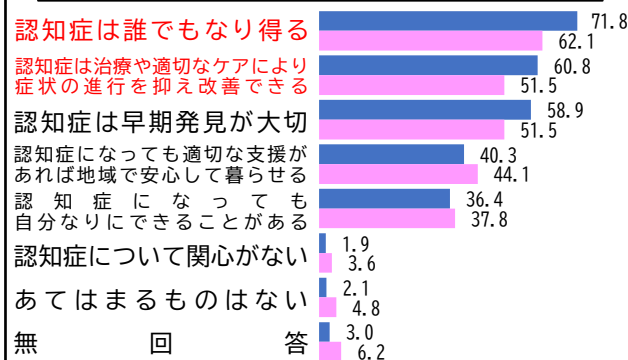
【令元】60.5% ➡ 12.2pt↑
【令4】72.7% ➡ 9.8pt↑
【令7】82.5%

- ▶【年代別】
年代が上がるにつれ、利用率
が低くなり、85歳以上では
27.4%
- ▶スマートフォンの利用率は
全体で**87.7%**

基本目標3 認知症ケア

（調査A 問36 概要p. 25、本文p. 69）
（調査C 問39 概要p. 26、本文p. 159）

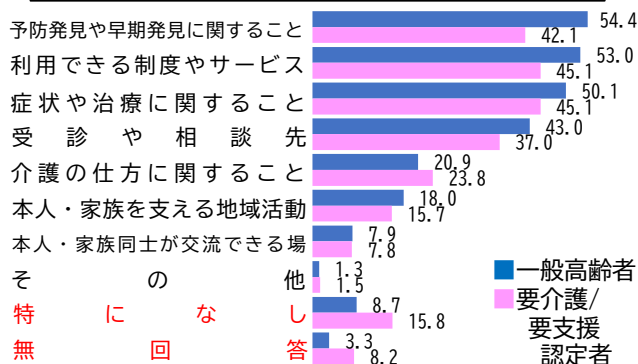
認知症についての考え（複数回答）



- ▶一般高齢者と要介護/要支援認定者とでは、一部結果に差がみられる

（調査A 問37 概要p. 25、本文p. 70）
（調査C 問40 概要p. 26、本文p. 160）

認知症に関する欲しい情報（複数回答）

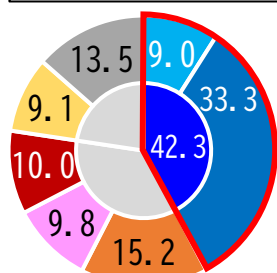


基本目標4 医療

(調査A 問29 概要p. 一、本文p. 61)

医療や介護が必要になっても
自宅で暮らしたい

42.3
%



- 家族の介護を受けて自宅で暮らしたい
- 介護サービスを利用して自宅で暮らしたい
- 高齢者向け住宅
- 特養等の介護施設
- 介護付有料老人ホーム
- 家族の判断に任せる

- ▶ 【性別】 男性は「主に家族の介護を受けながら」、女性は「主に介護サービスを利用して」、自宅で暮らしたい割合が高い

(調査F 問13 概要p. 44、本文p. 220)

医療・介護が連携していると考える(事業所)

74.6
%

【令和元年度】 —

【令和4年度】 88.3%

【令和7年度】 74.6% ➡ 13.7ポイント↓

- ▶ どんな方法で利用者情報を共有すべきか

- ・ サービス担当者会議 69.8%
- ・ ICTツールによる共有 66.7%
- ・ 訪問等により顔を合わせて 46.0%
- ・ 電話による共有 22.2%
- ・ FAXによる共有 19.0%

基本目標5 介護

(調査C 問21 概要p. 21、本文p. 139)

在宅生活の継続に必要なサービス

- ・ 掃除・洗濯 14.8%
- ・ 紙おむつ支給等 14.7%
- ・ 移送サービス 14.3%
- ・ 配食 13.2%
- ・ 外出同行 12.3%
- ・ 介護者慰労事業 11.5%
- ・ 介護応援手当 10.2%
- ・ 買い物 9.1%

- ▶ 家事に関する複数のニーズ

(調査D 問4 概要p. 一、本文p. 183)

主な介護者が不安に感じる介護

- ・ 認知症状の対応 32.4%
- ・ 外出付添・送迎等 27.7%
- ・ 夜間の排泄 21.4%
- ・ 日中の排泄 19.2%
- ・ 入浴・洗身 19.2%
- ・ その他の家事 14.2%
- ・ 屋内の移乗・移動 11.3%
- ・ 食事の準備 10.4%

(調査F 問11 概要p. 43、本文p. 216)

生産性向上ツールを利用している(事業所)

68.3
%

- ▶ 利用している生産性向上ツールの種類

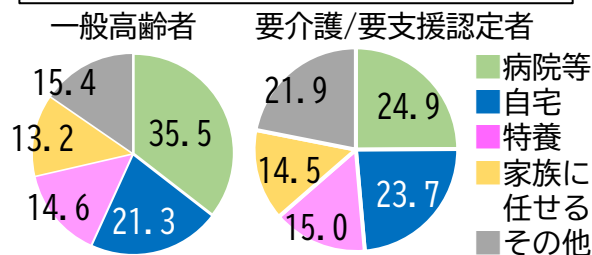
- ・ 介護記録の電子化システム(タブレットやスマートフォンでの入力など) 79.1%
- ・ 介護報酬請求業務の効率化ツール(請求ソフト等) 74.4% ほか

基本目標6 住まい

(調査A 問30 概要p. 15、本文p. 62)

(調査C 問26 概要p. 15、本文p. 145)

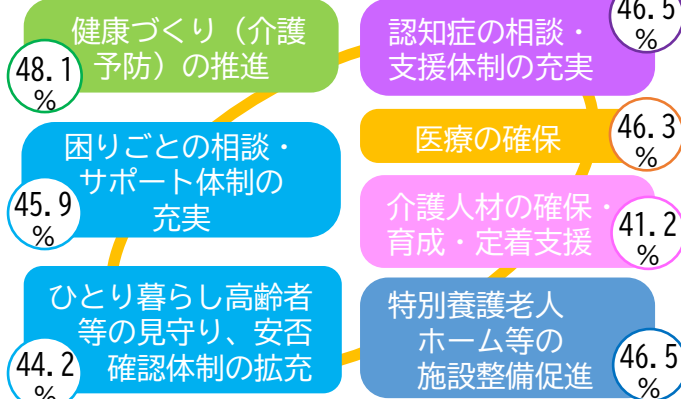
終末期に介護を受けたい場所



- ▶ 終末期の住まいとして多様なニーズ

(調査A 問39 概要p. 35、本文p. 72)

今後中央区が力を入れるべき
高齢者保健福祉施策(複数回答)



- ▶ 偏りなく、どの分野も一定のニーズ